

大分大学男女共同参画推進室の開室にあたって



学長ご挨拶

北野 正剛 学長

大分大学では、平成22年度文部科学省科学技術人材育成費補助金「女性研究者研究活動支援事業」の採択を機に、学長特別補佐（女性研究者支援担当）を配置するとともに、学長を本部長とする大分大学男女共同参画推進本部を設置し、この3年間「女性研究者サポート室」を中心に、女性研究者の研究活動と家庭生活の両立支援をはじめとする各種事業に取り組んできました。

補助事業の終了に併せ、これまでの取組を検証したうえで、組織体制についても全面的な見直しを行い、平成25年4月からは、「女性研究者サポート室」を「男女共同参画推進室」と改編し、人員も強化して、新たなスタートを切ることといたしました。

本学に在籍する全ての教職員及び学生を対象とした「第2期大分大学男女共同参画行動計画」そして次世代育成支援対策推進法に基づく「第4期事業主行動計画」もスタートしました。これらの計画に基づき、性別に拘わらず、ひとり一人がその持てる能力を最大限に発揮できる大学づくりに鋭意取り組んでまいります。

そして、これまでの取組を踏まえ、男女共同参画の推進を他の大学へ、そして地域へと展開していきたいと思っています。皆さまのご理解、ご協力をお願いいたします。

大分大学 男女共同参画行動計画（第2期）

大分大学は男女共同参画推進宣言（平成22年10月25日制定）に基づき、平成22年度から男女共同参画行動計画に沿って女性研究者支援を中心に男女共同参画推進に取り組んできました。そこで、本行動計画は、平成22年度から平成24年度までを第1期と位置づけ、第2期としての基本方針の具体化に向けて様々な取組について明確化するものです。第1期の取組により培われた男女共同参画の基盤を活かし、教職員全体の男女共同参画としてさらに強化・拡充し、個の能力を最大限発揮できる大学、地域に貢献できる大学をめざした先進的な男女共同参画を推進するため、平成25年4月から施行し平成28年3月まで取り組むものとし、最終年度には本行動計画の進捗状況をとりまとめ、次期行動計画を策定します。（期間については、各取組の進捗状況を踏まえ検証するため3年を目途とする。）

1. 男女共同参画推進体制の拡充

- 1) 男女共同参画推進室の設置・運営
- 2) 部門別体制による取組の実施
 - ・ 3部門（男女共同参画キャリア部門、両立支援部門、男女共同参画広報・地域連携部門）を設置する。
 - ・ 各部門長がそれぞれの部門を推進し、男女共同参画推進室長が各部門を統括し、調整する。

2. キャリア形成における男女共同参画の推進（男女共同参画キャリア部門）

- 1) 大学及び各局における女性教員比率の積極的な改善策（ポジティブアクション）の実施
 - ・ 新規採用教員の女性比率を向上させる等により女性教員比率を20%、修士及び博士課程女性学生比率を35%に引き上げる。このため、部局ごとに目標を設定し努力する。
 - ・ 毎年度、部局ごとの比率を調査・公表する。
 - ・ インセンティブ付与の維持
 - ・ ミッションコンプリート案の実施
- 2) 大学運営における意思決定への男女共同参画の推進
 - ・ 役職者、教授における女性比率を向上させるための方策を検討する。また、各役職における女性比率を調査、公表する。
- 3) 研究者のキャリアアップ
 - ・ 学会派遣支援の実施
- 4) 次世代向け啓発活動
 - ・ サイエンス講座等の実施
 - ・ ロールモデルの提示
 - ・ オープンキャンパスでの啓発活動、女性研究者との交流等の実施

3. 家庭生活と教育・研究・就業との両立支援（両立支援部門）

- 1) ワークライフバランスの徹底
 - ・ 仕事の効率化を図る（業務の抜本的見直し等）
- 2) 研究者の両立支援（育児・介護）
 - ・ 研究サポーターの雇用支援
 - ・ メンター制度の拡充（研究支援から両立相談へ）
- 3) 育児支援
 - ・ 病児保育の実施（挟間キャンパス）
 - ・ 保育支援の検討（旦野原キャンパス）

4. 地域社会との連携を通じた男女共同参画の推進（男女共同参画広報・地域連携部門）

- 1) 県・市などの自治体の男女共同参画との連携
- 2) 企業等との連携

5. 男女共同参画に関する啓発活動と教育研究の推進（男女共同参画広報・地域連携部門）

- 1) 学長声明その他による学内外への周知
- 2) 意識啓発
 - ・ シンポジウム、セミナー、交流会等の開催
 - ・ 意識調査の実施により、啓発活動の検証をはかる。
- 3) 情報の発信
 - ・ ホームページの更新
 - ・ 広報誌の発行
- 4) 男女共同参画に関する教育の推進

平成24年度までのほとんどの事業（学会派遣・研究サポーター事業含む）は継続されます。



室長ご挨拶

松浦 恵子 学長補佐・男女共同参画推進室長

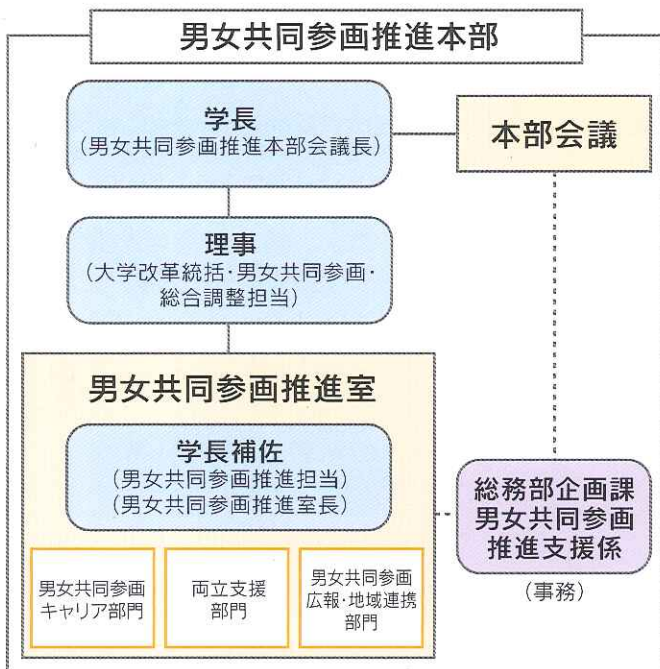
大分大学では平成22年度に設立された「女性研究者サポート室(FAB)」が、平成25年4月、「男女共同参画推進室(FAB)」として、新たに生まれ変わりました。

三か年で培った女性研究者支援の基盤を、これからは、教職員全体、そして次世代にむけて実現されることを目指した男女共同参画推進へと、より広く、より大きく行動をひろげていきます。推進体制は3部門制となり、より多くの学内委員の推進力をバネにしていきます。

- 1) 研究の力とキャリアをアップし、次世代の研究者をめざす若者を育成し、
 - 2) 仕事と家庭の両立を支援してキャリアの継続や仕事の質の向上につながることをめざし、
 - 3) 情報を共有して男女共同参画について学び、地域とつながり、地域に貢献できるよう、
- Fabulous(すばらしき)Academics at Bundai(大分大学の大学人)の男女共同参画を推進してまいります。これまで以上のご理解とご協力をいただけますよう、心よりお願い申し上げます。

大分大学男女共同参画推進体制と部門委員の紹介

大分大学の男女共同参画推進体制図



男女共同参画キャリア部門

部門長	安岡 正義	経済学部・教授
	荻野千砂子	教育福祉科学部・准教授
	山崎 栄一	教育福祉科学部・准教授
	城戸 照子	経済学部・教授
	宮崎 英士	医学部・教授
	内田 智久	医学部・助教
	石川 雄一	工学部・教授
	堤 紀子	工学部・助教
	西口 宏泰	全学研究推進機構・准教授
	総務部人事課長	
	研究・社会連携部研究協力課長	
	財務部財務課長	
	学生支援部教育支援課長	

両立支援部門

部門長	大杉 至	教育福祉科学部・教授
	秋山智恵子	経済学部・講師
	前田 知己	医学部・准教授
	倉内 芳秋	工学部・助教
	棕野美智子	福祉社会科学部・教授
	総務部人事課長	
	総務部企画課長	
	医学・病院事務部総務課長	

男女共同参画広報・地域連携部門

部門長	雲 和子	経済学部・准教授
	大隈ひとみ	教育福祉科学部・講師
	吉良いずみ	医学部・助教
	野中 嗣子	工学部・助手
	島岡 章	学術情報拠点医学情報センター・教授
	総務部総務課長	
	研究・社会連携部社会連携推進課長	
	学生支援部教育支援課長	
	学生支援部入試課長	



▲男女共同参画キャリア部門会議



▲両立支援部門会議



▲男女共同参画広報・地域連携部門会議

第1回部門会議は、男女共同参画キャリア部門が5月14日、両立支援部門と男女共同参画広報・地域連携部門がそれぞれ5月16日、旦野原キャンパスにて開催されました。

6月3日、挟間キャンパスに 病児保育室ひだまりが開室しました

病児保育とは、病気の「回復期に至らない場合」または「回復期」で登園(所)・登校できないお子さまを看護師・保育士が家庭に準じた環境で看護・保育することです。

大分大学では、大学職員および大学院生が「教育・研究・就業」と「育児・家庭生活」とをよく両立させることができるよう、その一つの施策として「病児保育室」の開室を計画し、既存の大学内保育施設「なかよし保育園」がある挟間キャンパスで、平成23年5月から具体的に準備を進めてきました。

このほど、臨床講義棟と附属病院に隣接した真新しい「福利厚生棟」の1階に、「病児保育室 ひだまり」が誕生し、6月17日には、コンビニエンスストア等も備えた同棟全体の竣工記念式典も催されました。今後、利便性のよいキャンパス内中心部にあって、「病児保育室 ひだまり」は、優しい温かな存在感を発揮していくことと期待されます。

ご利用の流れ

①事前登録

あらかじめ、事前登録が必要です。
病児保育室事前登録票をHPからダウンロードして記入のうえ、病児保育室まで、E-mailまたは学内便で提出してください。

②保育予約(電話のみ)

病児保育室へ直接連絡のうえ、ご予約ください。

③事前診察

原則として事前診察をお願いします。
かかりつけ医連絡票をHPからダウンロードして医療機関を受診してください。
医師に記入いただき、当日お持ちください。
※事前診察がない場合でも、病児保育室の空状況、お子さまの状態を確認させていただいて、可能であればご利用いただけます。

④保育受入

病児保育室利用申込書をHPからダウンロードして記入のうえ、必要物品を持って病児保育室に来室してください。

⑤看護・保育

⑥帰宅

利用案内

設置場所:大分大学医学部挟間キャンパス福利厚生棟1階

利用対象者:大分大学職員・大学院生が保護者である
生後6か月～小学校3年生までのお子さま

定員:4名

開室日・時間:月曜日～金曜日(土日祝日、年末年始休日等を除く)
7:30～17:30

保育料金:¥2,000/日 ¥1,000/4時間未満

担当職員:看護師・保育士

※見学や相談は随時受付。

TEL:097-586-6230

E-mail:hidamari@oita-u.ac.jp

HP:http://www.fab.oita-u.ac.jp



図書・DVD等の寄贈をお待ちしています

ご家庭で利用されていない絵本やアニメDVDがございましたら、病児保育室へご提供ください。



▲病児保育室ひだまり室内

「ひだまり」という名前について

「ひだまり」という名前は、公募に多数お寄せいただいた中から、審査員一同の厳正な審査の結果選ばれました。名づけてくださったのは、生野淳子様、古谷文恵様、塩田星児様、平山浩次様です。「ひだまり」の名に託した想いを聞くことができました。その一部をお伝えします。

- 「病児は、つらく、苦しく、憂うつで、みんなと一緒に遊んだりできず、気分的にも暗くなってしまうことが多いのではないかと思います。そんな病児が過ごす病児保育室を、春の陽ざしがふりそそぎ、明るく、お母さんに抱っこされているようなほかほかした温かい心地よい場所としてイメージしました」
- 「子ども達に、少しでも、安らぎ、安心感を与えられる温かい場所でありたい、そして、子ども達に笑顔になってほしい」



▲「ひだまり」命名者表彰式

Column

このコラムでは、大分大学の教職員の方に、
男女共同参画ということに寄せて思いやお考えをご自由に述べていただきます。

「未来へ恩返し」 教育福祉科学部講師 河野伸子 さん

私が担当している『生涯発達心理学』の講義の1コマでは、「男女共同参画白書」を提示し、自分の将来と現代の課題を考える時間を設ける。資料から示される、仕事と家庭の両立がまだまだ難しい女性の現実、家庭を大切にしたいと思ながらも仕事に忙殺されている男性の現実、学生達は少なからず衝撃を受けるようである。

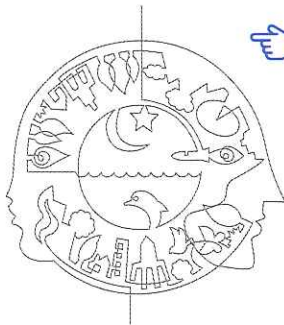
個人的な話で恐縮であるが、私自身は非常に恵まれている。理解ある職場と子育ての環境があり、ライフワークとしていきたい心理臨床活動の場も与えられている。先輩方が切り拓いてきた道の上に現在の私の生活があり、たくさんの人に支えられて毎日の私の幸せがある。そして、子育てに携わりながら、次世代を担う人々が幸せに生きていくために、今、何が出来るかを切実に考える。

男女共同参画とは、畢竟、世代や性別を超えた支え合いの循環だと思う。「私もたくさんの人にお世話になったから、あなたは後輩達に返してあげてね。」これは、大学院生時代、お世話になった先輩からかけていただいた言葉である。今はまだ、助けられ、支えられることの多い立場だが、心理臨床活動や教育研究活動を通じて、これまで受けてきた恩恵を、少しずつでも未来に還元していきたい。

ホームページがリニューアルしました。

「大分大学女性研究者サポート室」のホームページが、「大分大学男女共同参画推進室」のホームページとして、リニューアルしました。新しいホームページでは、これまでの活動の成果を盛り込んで内容を充実させるとともに、より見やすく使いやすいかたちを目指しました。大分大学の男女共同参画推進を主導する3つの部門とその事業が視覚的に分かりやすく表されたトップページからは、スムーズに各種事業の案内へアクセスできます。

<http://www.fab.oita-u.ac.jp>



このマークをご存知ですか — 大分大学が推進する男女共同参画のイメージ図です

頭脳＝智を合わせて男女の横顔が円を成す、このマークをご存知ですか。男女が一となり、大いなる自然である海と空を中心に包み込んで、私たちの活気あふれる豊かな世界が夢見られています。

この図は、オリジナルイメージキャラクターの“FAB子ちゃん”とともに、大分大学男女共同参画推進室のシンボルです。



FAB子ちゃん

編集後記

4月に新体制となり、部門会議の開催やHPの更新作業等で、慌ただしく月日が経ち、大学の構内にたくさん植わっている山桃の小さな赤い実も梅雨空に消えていきました。

これからも、本学の男女共同参画推進に関するさまざまな取組を積極的に情報発信していきます。皆さまのご理解ご協力をお願いします。

男女共同参画に関する取組や
催し物についての情報をお寄せ
ください。

ご意見・ご要望をお寄せください。



編集・発行元 / 国立大学法人 大分大学 男女共同参画推進室
〒870-1192 大分県大分市大字旦野原700番地 TEL(097)554-8573
〒879-5593 大分県由布市挾間町医大ヶ丘1丁目1番地 TEL(097)586-6347
E-mail: fsupport@oita-u.ac.jp http://www.fab.oita-u.ac.jp/

